

# 焼津市都市計画マスタープラン

## 第1回検討会 議事録

日時：平成26年11月4日（火）13：30～16：15

場所：焼津市役所本館6階 603号室

### ◆出席委員等

委員区分・所属団体等			氏名	
委員	学識経験者	合同会社デザイン・アープ	会長	川口 良子
		(有)アムズ環境デザイン研究所		高木 敦子
		富士常葉大学社会環境学部	副会長	田中 聡
		静岡大学防災総合センター		原田 賢治
	各種団体	大井川農業協同組合		小池 大士
		大井川商工会		斎藤 兼司
		一般社団法人 焼津青年会議所		原川 博邦
	市民代表	公募		桑原 光子
		公募		鈴木 恵子
		公募		辻 幸夫
		公募		寺田 浩司
	オブザーバー	静岡県島田土木事務所都市計画課長		高塚 博

※資料説明者

資料1:市都市計画課

資料2・3:コンサルタント

### ●会長・副会長の選出

#### （市都市計画課）

- ・ 続きまして、会長、副会長の選出に移ります。焼津市都市計画マスタープラン検討会設置要綱第6条第1項で検討会に会長および副会長を置くことになっており、同第2項で会長および副会長は委員の互選により定めることになっております。つきましては、会長をどなたかに推薦いただけますでしょうか。

#### （原田委員）

- ・ 会長に川口委員を推薦させていただきたいと思っております。

#### （市都市計画課）

- ・ ただいま原田委員から川口委員を会長にとの推薦がございました。ほかに意見等ありましたらお願いいたします。特になんということでもよろしいでしょうか。

#### （市都市計画課）

- ・ ありがとうございます。異議なしということで、川口会長に議事の進行をお願いしたいと思います。
- ・ それでは、川口会長には会長席に移動していただいて、ごあいさついただければと思います。川口会長よろしくお願ひいたします。

**(川口会長)**

- ・ 会長に推薦いただきましてありがとうございますとお礼を申し上げるべきか悩むところでございますが、専門が都市計画ということですので、慣れない会長職ですけれどもお受けしたいと思います。
- ・ 都市計画というよく聞きますが、「何」と聞かれると素直に答えられる人はそうそうお見えになりません。私も、「都市計画って何」と聞かれますと相当悩みます。きちっと端的にご説明するのは本当に難しい分野です。でも、暮らしにすごく密接にかかわっている部分で、いろいろな方面のことに對して関係するものだという事は本当に事実です。先ほど自己紹介していただきましたが、本当に多方面、多分野の方に参加していただいているので、暮らしに密接にかかわるようないろいろな課題認識とか、今後こうあったらいいなというところを皆さんに率直にお話ししていただけるように、気軽に都市計画について語れるように進行することを主眼に会長を務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)
- ・ 田中委員を推薦したいと思いますですが、皆さまいかがでしょうか。(拍手)
- ・ それでは、田中委員よろしくお願いいたします。副会長は、焼津市都市計画マスタープラン検討会設置要綱第6条第4項の規定により、会長に事故があるときはその職務を代理することになっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 本日出席いただいております委員は、12名中、現在は10名でございます。高木委員につきましては後ほどお見えになるとお聞きしております。焼津市都市計画マスタープラン検討会設置要綱第7条第2項の規定によりまして、過半数の委員の出席でございますので本会を開催することをお伝えいたします。

**●資料 1 説明(市都市計画課)****●資料 2・3 説明(コンサルタント)****●意見交換****(川口会長)**

- ・ それでは意見交換の時間に移らせていただきます。今までのご説明とか、その他何でも結構ですので、ご意見等ありましたらぜひ積極的に発言していただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

**(原川委員)**

- ・ 青年会議所でございます。ちょっと宣伝がてらですが、先ほど 18 歳以上の方を対象にアンケート調査とか意識調査をするというようなお話がありましたが、われわれの団体でそれ以下の子どもたちと、今年1年「焼津未来創造会議」という会議を開催させていただきまして、つい先日、その活動報告をまとめさせていただいたものを中野市長に提出させていただきました。子どもたちの意見ですからあまり提言的なものではないですが、一応そういうものを提出させてもらったものですから、何か足しに、というか、参考になればと思います。一応県にも今後提出させていただく運びになっているものですから、多分市長のお手元にあると思いますので、ぜひ見ていただければと思います。
- ・ 質問を1点お願いしたのですが、観光交流の先ほどのグラフ、パワーポイントの 15 ページに、平成 20 年ぐらいを境に観光客の数が増えているというデータがあったと思います。そこら辺の背景となる

ものと、あと、焼津市に来られたのは、多く何が目的で来られているのかというようなデータがあったら教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

**(川口会長)**

- ・最初の、子どもさんたちの「焼津未来創造会議」は、焼津市全域のお子さんたちのご意見ですか。

**(原川委員)**

- ・公募でこういった選抜の会議を何回か、30名ほどだったと思いますが、小学生から高校生ぐらいまでですか、今の焼津をどう思っているか、これからの焼津に必要なことは、というような Next Innovation の会議を開催させていただきまして、その会議の内容と、やった事業の活動報告というかたちでまとめたものを市長に提出させていただきました。

**(川口会長)**

- ・このマスタープランは20年後を目指しています。今の中学生、高校生が20年後は一番最前線で活動する頃ですので、何らかの形で意見が反映されると非常にいいのかなと、お話をお聞きして思いました。
- ・観光交流についての質問に対して、お答えはできますでしょうか。

**(原川委員)**

- ・ありがとうございます。

**(コンサルタント)**

- ・15ページの観光交流の動向で、20年、21年ぐらいのところから少し増加をしていますが、という話でしたが、まず結論的になぜ増加したかというのは現時点ではつかんでおりません。これは県のほうで毎年出しております「静岡県観光交流の動向」という、そのグラフを今回使わせていただきましたが、多分それぞれの年によって何か要因があったり、あるいは、もしかすると調査方法とかそういったものが変更されているところもあったりしますので、持ち帰らせていただきまして、増加している要因を少し分析したり、主にどういったところに観光客が出向いているのか、焼津さかなセンターは観光客が非常に多いというのは定性的にはわかっていますが、少し追跡調査をしたいと思います。以上です。

**(川口会長)**

- ・今のことで、ついでで、他の市との(違い、)焼津の観光の位置付け的なものが同じようにわかれば。相乗りで欲張りますが、もしわかるのならその辺も。特性を調べてもらうときに、ほかの都市とどこが違うのかということもちょっとあるといいのかなと思いました。
- ・ご質問で手を挙げていただいておりました辻さん。

**(辻委員)**

- ・質問といいますか、意見もちょっと入るかもしれませんが、まず、会議の進め方の位置付けをちょっと教えていただきたい。今日は課題をいろいろ出されました。それは大体全国的に言われていることで、どこの地方公共団体でも同じような課題を抱えているのではないかと思います。人口減少をなんとか食い止めたい、これからもっと人口を増やしていきたい、あるいは、商業をもっと活性化させたい、雇用を増やしたい、幾つかあると思いますが、市として何に重点を置いてこれから中長期の計画の柱として持っていたいのか、それがよくわからない。それがいつ頃提示されて、私どもとしてはそれに対してどの時点で検討すればいいのかというのがちょっと見えないものですから、それが一つ質問です。

- ・そして、今、課題を挙げられましたが、焼津市としてのほかにはない特長と申しますか、いい面もたくさんあるのではないかと思います。例えば非常にアクセスがいいとか、魚がおいしいとか、地酒がおいしいとか。私は東京に行ったり来たりしていて、お客さんを焼津に招待したことも何回かあって、台湾の人が来たことがあります。非常にみんな言うのは、魚がおいしい、景観がいい、富士山も見える、アクセスがいい。そういったいいところも出していただいて、ではどういふふうにもっていったら活性化するのかという観点でやったほうが進みやすいのではないかと申す。以上です。

### (川口会長)

- ・ありがとうございます。非常に根本的な話です。進め方として、大前提として、市としてこういうところを重点的にやっていきたい、それを考えたときに、都市の器としてはどうあったらいいのかというのがここで検討することなのか、という根本的なご質問だと思います。その辺りでいかがでしょうか。市としての。
- ・私は非常にばくつしているなと思ったのですが、資料1で、都市計画マスタープランはとにかく都市の器をつくることなので、住んでいる人にはここにいてほしい、ほかの人も魅力あるまちとしてここに住んでもらいたい、交流人口も増やしたいというのが一番本音の気持ちですが、これ全部だなあとか思いながら。どこも皆願っていることですから。「市として、特にここを重視しながらという方針を持っています」というところがあるのか、もしあるなら、それはいつ示されるのかというご質問でしたが、いかがでしょうか。

### (市まちづくり政策課)

- ・総合計画を担当しています藤野と申します。焼津市の総合計画ですが、今日お手元には資料がないものですから恐縮ですが、平成 23 年度に第5次焼津総合計画を策定しまして、これの計画期間が平成 30 年度までとなっています。
- ・23 年度は皆さんご存じのとおり大震災があった年で、その策定直後に震災があったものですから大震災を反映していない計画ですねということいろいろなところからご指摘があったことを踏まえまして、基本計画を1年早めて作りました。本来であれば4年、4年の区切りで、前期計画、後期計画ということで区切って作るものですが、後期計画を1年前倒しまして、昨年度見直しをしたところでございます。
- ・その後期基本計画の柱にした施策は、まず、先ほども言いましたように、定住人口の増大につなげよう、交流人口の増大につなげようというところを目指すための施策としては、まず1点目は子育て施策の充実、2点目は雇用の確保の充実、3点目は災害に強いまちづくり、ここが一番ポイントで、市として力を入れてやっていきたい施策に位置付けているものです。それが基本の、今後中長期にわたって計画上の力を入れていきたい施策に位置付けられているものです。
- ・二つ目にご質問があったことですが、実は、震災後、転入者が大幅に減少したことで、人口減少、転入と転出の差がそれだけ開いてしまっている状況がありますので、何で焼津から転出するのか、一方、焼津に入ってきた人は何で焼津を選んでくれたのかということ窓口にアンケート調査をいたしました。
- ・ちょっと参考になるかどうかわかりませんが、何で焼津に入ってきたか、焼津の魅力、焼津のいいところのイメージを聞かせてくださいといったことを調査項目としておりまして、その中で一番多かったも

のは、先ほどもご意見がありました、とにかく魚がおいしいといったご意見が圧倒的に多かったです。次は、交通の便が優れている。具体的にいうと、JRの駅が二つある、東名インターチェンジもあるといったアクセスが非常に優れているというのが2番目に多かったです。3番目として、住みやすさということで、特にこれは自然的なことを言っていますが、「温暖な気候である、自然環境にも恵まれている、そういった点が焼津の一番いいところだ」といった、外から見た方からのご意見が多かったということで参考にしていただければと思います。簡単ですが、以上です。

### (川口会長)

- ・ 都市計画のマスタープランとして、確かに都市マスを作るうえでの基礎的な調査としてこういった内容は入っていますが、では、今後の焼津のことを考えようとしたときに、課題に対応してここはこうしましょう、ああしましょうだけでなく、もうちょっと大局的に、焼津市としてはこうあるべきであって、そこに対して、課題にただ単に対応するのではなくて、もうちょっと市全体の魅力を視野に入れて、どうあるべきかというのを検討したほうがいいのか、というお話と解釈しました。そういったところをこの中で言及するような場面はあるのかということです。
- ・ 逆に言うと、載せたほうがいいのか、こういうところをぜひ載せるべきだ、ということで、この検討会としては意見を言っていけばいいということもあるかと思しますので、よろしければちょっと言っていたらと思います。

### (辻委員)

- ・ 私どもが民間レベルで中長期計画を策定する場合、上位層が、担当している事業について5年かけて——10年というのはちょっと今読めない——今の状態をどういうふうにもっていきたいかということをもとに考えて、それを実現するためにはどういった施策を打っていったらいいかということで政策を立案して、そして定量的な数字の裏付けをつくって行って、予算とか中期計画という手順になります。
- ・ 非常に中長期の都市計画プランですから、人口をもっと増やしたい、より人が来るようにしたいというふう考えたときに、課題とか焼津市の特徴を頭に入れて、ではどこをどういうふうにつくり替えていったらいいのかという、何か柱になるような幾つかのプラン、そういうものを作っていくか、ただ抽象的に課題を挙げて、それぞれの部署で「こういう取り組みをしよう」で終わってしまうのではないかと気がしております。それはこの検討会では無理なら無理でいいですが、検討するだけで結構ですというなら、そこら辺のまとめ方はどうでしょうか。

### (川口会長)

- ・ どうですか。私もここで扱う範囲を、やっぱりまだまだ皆さんは戸惑いがあると思いますから、その辺で、実はこう考えていますというところがあったら言っていただけるとありがたいなと思います。

### (市都市計画課)

- ・ まず課題については今まとめて(います)。また、アンケートでいろいろな課題も出てくるかと思われませんが、将来の作業部会である程度の案をその課題でもって見つけて、それをまた、学識経験者の方もいらっしゃるこういう場に持ってきて、そこで検討していただくというようなことを考えてはおります。

### (川口会長)

- ・ 都市計画の大きな基本方針を最初に出す時期が…次回はもう都市構造になっています。その中間に、こういうふうな方向でいきたいねという大方針的なものを。実はあるのだろうかと、私はほかの例を知っているので思っていますが、ここには入っていないじゃないですか。その辺は、いつの段階でどう

いうふうに出てくるのかというのがわかれば逆にいいと思います。

**(市都市計画課)**

- ・ 次回、アンケート等が、まとめて提出できるものですから。焼津市については、まちづくりで一番基本となるのは防災、減災ということになると思います。そういうところを次回まとめていけるのかなと思っております。

**(川口会長)**

- ・ あとでまとめたいと思います。ほかの方、ご意見等、あるいは何かありましたら。

**(原田委員)**

- ・ さっきの話の続きみたいになりますが、今インターネットで焼津市のホームページを見ると、「第5次焼津市総合計画基本計画案」というのがあって、平成22年8月に出されているものの頭のほうを見ていくと、施策の体系図の中に「将来都市像」という項目がございまして、「人がキラリ 海がキラリ まちをキラリ ～活力と自然の恵みに満ちたまち 焼津～」というスローガンというかキャッチフレーズが書いてあって、海を生かしてまちをうまくつくって、人もそこで活躍していくんだといったような方向、これが先ほど言われた大きな方針の基本になるところで、これを具体的にどう実現していくのかというのが先ほど言われたような基本方針の部分なのかなと思いますが、その辺りは、平成22年度に作られたものが今確認できたものですので、そのあと特に変更はないという状況であれば、これが基本的な方針であって、これを具体的にするために、まちの中にどんな機能が、どこにどのぐらいほしいのかということ、このマスタープランの中で議論するのかなというふうなイメージで私はいたのですが、そんなイメージでよろしいのでしょうかという質問です。

**(川口会長)**

- ・ 私もそのようなイメージでおりますが、よろしいですね。都市マスなので、あくまで具体的な、都市がそういう活動をしていく器を作っていくときの基本的な考え方をここで検討して、庁内の策定委員会が最終的意思決定者はこちらの報告書には載っていますから。こちらはいろいろな立場の人がお見えになる中で、市としての総合計画の大方針があって、現状の課題があって、都市の器を作るときの方針がこれから示されて、都市構造はこうあるといいよねというところを皆さんで自由に意見を言わせていただく。そのときに欠けている視点とかあれば、それを指摘していただくということがこの役割かなと思っています。最終決定はあくまで策定委員会になりますから。私もわかります。総合計画で、抽象的な言葉が載っていた、これを器に落とし込めと言われても、というところだと思いますが、皆さんに自由に言わせていただく中で、こんなことかなというのが実は議論していると出てきたりもしますので、そんなところで進めさせていただければなと思います。ほかにどうでしょうか、

**(市都市計画課)**

- ・ 本日お配りしている資料3というものがございしますが、パワーポイントではなくて、「焼津市都市計画マスタープラン—第1回検討会—」ということでお配りしているものの7ページに、「各会議の開催時期及び協議事項」ということで、案の段階ではありますが、第2クールに「全体構想(都市構造まで)」と書いております。中身については、基本理念、将来都市像、将来都市構造について、そこまでまとめていくことができるのかなというところなんです。

**(川口会長)**

- ・ありがとうございます。もうちょっとかみ砕いたのが資料3の7ページにお示しいただいているということですね。ただ、ここの大前提で、大方針については総合計画とかいうこの上位計画で定められたことを順守するかたちで都市マスは考えていくということになるかとは思いますが。どうでしょうか。

### (高木委員)

- ・私は事前に総合計画の23年度版と、それから今後期で作り直しているということなので、概要をいただいて多少見てきましたが、ここに遅くに入って来たら、いろいろな課題があって厳しいなという、要は、人もいなくなり、産業も疲弊してきて、そして人口密度もまばらになり、災害のことに関しても厳しい状況だということであまりいいところがないような感じがします。
- ・ただ、これは日本全国どこも同じ状況で、人口を増やそうといっても日本全体が落ち込んでいます。地球規模では人口は増えていますので、これからだったら、施策としては、婚活とかいろいろやっていますが、とにかく外から連れて来るしかないのではないかと思います。
- ・それはちょっと置いておいて、総合計画の中で重要なのは、産業と、子育てと、災害に対することという柱が出ていて、「人がキラリ 海がキラリ まちをキラリ」ということで、焼津はやはり海があるからこそ災害で厳しい、そして人もいなくなる、ということもありますが、ここは海を捨てては生き残っていけないまちです。やっぱり海があってこそその焼津。焼津の特徴はやっぱり海。そうしたら、海と真正面にどう向き合って都市構造をつくっていくかということが重要だと思うのです。
- ・防災面でできる限り、地震が来て津波が来るということは大前提で、釜石の奇跡ではないですが、来ても誰も死なないというような環境をどうつくれるのか、それが都市の構造の中でできるのか、ある程度防災対策でできるのか、人の訓練というか、気持ちというか、そういう中でできるのかというのは置いておいて、産業で成り立つといっても海の産業を切り離すわけにはいかないもので、どこに行っても海が、海が、ということになると、海とどう付き合っていくのか、都市の面としてどう海と向き合っていくのかということ、新しい焼津としての、日本の中での海との付き合い方をきちんと出していく。
- ・今、岩手とか東北の中では、海との付き合いの中で、それぞれのまちが海の前に大きな防波堤をたてるのか、いろいろなやり方をやっていますが、そういうのも見つつ、県でやっている内陸フロンティアも、実は中山間地を開発するということではなくて、海辺のまちづくりをしっかりとやっていくというのが静岡県の内陸フロンティアの基本の大きな柱ですから、そういうところとも連携すると一体どういうふうな都市構造ができるのかということはこの場で議論していくのだろうなと思いながらここに来ました。
- ・やはり、これからの都市は、どのまちに行ってもいい状況が、現況を調べると、右肩上がりではなくて、大体現状維持かちょっと下がっています。だからといって、毛布をかぶって、ずっと私たちは不幸だと言っていていいのかというところではなくて、やはり今よりも少しでも幸せになりたいとか、豊かな暮らしをしていきたい。今までの豊かさというのが、割とハードがあって、人が増えてきて、お金がどんどん儲かってという、(そういう)豊かさではなくて、コンパクトに、そこそこ豊かだねということが、どう落としどころとしてつかめるのかというのがそれぞれのまちの幸せ度にかかわってくるということになると、焼津市民たちが何をもちて幸せだと感じるのか。要は子育てのこととか、日々の暮らしの中のコミュニティの話とか、もしかしたら歴史とか文化とか、そういう側面なども、やはり土地利用の中に生かしていくこともこれから重要なのだろうなとは思っています。ちょっとまだまとまってないので総花的ですが。
- ・歴史・文化というところは、これからの都市構造をつくる中で私は非常に重要なキーワードになってく

るのではないかなと思うのです。これから観光面、これは日本の中での観光というよりも外国からの方の観光も考えるとなったときに、外の方たちが何でそのまちに来るかという、自分のまちにない、住んでいるところのない魅力があるからこそ来る。住んでいるところで持っていないものというのは歴史とか文化です。

- ・ そうしたときに、焼津は花沢の里があったり、日本武尊が通った道であったり、高草山があったり、古代東海道のルートであったり、あと、来年は徳川家康四百年祭ですが、家康公があそこまでの人物になったのは今川家があったから。その今川家の中興の祖の今川氏親がここ焼津で逃げ延びて、ここで育て今川家を盛り返したというような、そういう脈々たる歴史もあり、近代になれば小泉八雲がここのまちにほれ込んであれだけのものを残したというのがある。それを、どう物語にして、都市の中に散らして、そして、それを線でつなげて面的な観光にしていくのかということも議論を進めていく中で話し合われると多層的な、いいまちができてくるのではないかなという感じがいたします。
- ・ ですから、課題は課題で踏まえて、あとはどういいところを伸ばしていくのか、どんないいところが生まれているのかということの「いいところ探し」をうまくやっていければいいかなという感じがいたしました。以上です。

### (川口会長)

- ・ ちょっと共通しているところは、あまりにも悲観的なデータばかりずらずら並んできていますので、焼津として生かすべきところを、もうちょっと視点として入れるということ。
- ・ 歴史・文化という話の中で大事なところとしては、近年の都市計画の動向というところで国の方針とかそういうのが出されていますが、ある種、国の出してくる都市構造は一定のパターン化された形があると思います。大きな課題のベースになって、都市構造の今後あるべき(姿)というのは一定の集約とほかの地域との連携であると思いますが、その都市ならではのものというのは、歴史背景を、今後の都市構造の中で継続的に歴史・文化の背景を都市構造にちゃんと生かしていけるのか、それを出せるか出せないかにかかっているのかなと、ちょっと自分の意見を入れながら、今の意見をいただいて感じています。
- ・ それをどうやっていくのかなというのを、国の方針とかそういうことだけでなく、皆さんで、こうしたいのよ、というのをぜひ。なかなかこういう世界で言いにくいかもしれませんが、本当に日常の会話で言っていたら構わないので。今、割と外部の人の意見が多いので。
- ・ 逆に、高木さんは海を真っ正面に据えて考えたほうがいいわよと言いますが、さっきの説明では、そうは言っても内陸に人口は増えているじゃん、とか、いろいろありますよね。そういう中で、実際、海と共に生きる都市として、それは本当に大事と思うという意見でも構わないし、こうあってほしいというのがあれば、ちょっと言っていたらいいかなと思います。

### (鈴木委員)

- ・ いろいろ皆さんの意見を聞いて、自由にとということですので素人なりの考えを言わせていただくと、歴史というのはすごく焼津市は。私も静岡から嫁に来まして、焼津市は焼津神社を中心にとということで(私は思って)いました。
- ・ 一番最初の方の話で観光旅行者が増えているということで、私はふっと思ったのですが、焼津市というのは、景観的には(富士山が)世界遺産になって、それからあとなぜ増えているかというのを考えた場合に、焼津の行事が欠かせないと思います。花火大会、あかり展(浜通り「夏のあかり展」)とか、



このあいだやりましたさば祭り(小川港さば祭り)、年々増えていると思うのです。うちの前を通る方がすごく増えています。そういうことを考えますと、人を増やすには、やはりちょっとした工夫とか、なにかちょっとした、視点を変えとかいうことが必要ではないかなとふっと思ったものですから、それをちょっと言わせていただきました。

- ・ もう一つは、焼津市の課題のところ、超高齢社会というのはどこの都市もそうですが、うちの周りも高齢化率は40%を超えております。
- ・ もう一つ頭に置いていただきたいのは、災害の面で、先ほど言いました災害弱者の面ですね。介護を受ける方が非常に増えているということも頭の隅へ置いておく必要があるのではないかなということで、ちょっと一言言わせていただきました。ありがとうございました。

#### (川口会長)

- ・ 隅ではなく、ど真ん中に据える課題だと思います。ありがとうございます。

#### (桑原委員)

- ・ 私も、観光のデータを見て増えているんだなと思った反面、ETCの1,000円のとくと重なるのかなとか思いました。
- ・ 私は子育てが終わってきているので、移動としては市外や県外に行っていることが多いので、情報発信を上手にしていけば、焼津の魅力が広がり、また、交通の便がよくなれば外からも来るのかなと思いました。
- ・ それと、今、中心市街地の活性化がどこでも課題になっているかと思えます。私は駅のすぐ北側のマンションに住んでいます。確かに駅に近いことが魅力でそこに住み始めましたが、駅前の人通りは本当に少ないです。これから市役所が移転するというようなお話もあったりする中で、移転する場所によってもまちがまた変わっていくのかなと思えます。病院にしても役所関係にしても多分こういった都市計画の中には必要ですし、それを踏まえての計画になるかと思えます。
- ・ いただいた資料の中の前回のマスタープランのものを見ました。書いてあることは確かに夢があって、これと同じものがまたできたにしても、将来にわたって本当にいいまちになるのかなとも思いながら、ただ、これを作って10年するかしないかのうちに合併があったわけですね。そう考えると、今、20年後ということのを頭に置きながらということですが、生活も変化するし、そういった大きな変化をどこまで想像して計画を立てていけるか。多分大きな予算を使ってこういう計画をされると思うので、市にはどういった計画があって(都市)構造をどう考えていくかということを私たちも知っていないと、こういったものになかなかかわられていけないのかなと思いつつながらお話を聞かせていただきました。どうもありがとうございます。

#### (川口会長)

- ・ 今のご指摘の中で、これから都市構造をやるときに拠点の問題が出てきます。拠点のあり方をどうとらえるのかということが都市構造のときに大事になります。今のお話では、施設があるだけでなく、活動の実態として一体どうなっているのか。中心市街地とは言いますが、活動の実態として本当に拠点性があるのか。今後もそれは拠点性を持たせていくのかとか、観光の方でも拠点がいろいろなところに見えるようですが、実態の拠点としてどうなっているのかといった視点を大事にしながらかつていって、いきいきと焼津で活動されている方の拠点のイメージも初めて浮かび上がってくるかもしれないと話をしていました。そういった視点で拠点というものをぜひ。今までだと、市役所が

あるところが拠点、昔から市街地だったから拠点とか(そういう考え方でしたが)、実態としての拠点はどうかということ、ここでみんなで率直に議論できるかというのかな、そうすると焼津らしさも出てくるかもしれないなど思いながら聞いておりました。

- ・大井川は散居村で有名だったりします。だから、都市計画マスタープランでも、逆に言うと、焼津の中心は密集市街地の改善に一生懸命取り組まなければいけないような歴史的背景があったりする中で、今度、一緒に(都市計画マスタープランを)作るときに、大井川としてどんな感覚というか、都市マスに期待するところというのはどうですか。

#### (齋藤委員)

- ・今は合併して焼津市になって。旧大井川(町)ですと、大井川港がありまして、シラス、サクラエビ等があります。シラス、サクラエビという由比とかあっちのほうが全国的には知名度はあるのかなということもあります。焼津港も焼津市。旧大井川(町)の商工会に加入されている方は旧大井川(町)の方が多いですが、オール焼津ということで考えると対外的にもアピールできる面は非常に増えています。旧大井川(町)というふうにこだわらず、オール焼津というかたちで。焼津と大井川が合併して、旧焼津市からすれば港が1個増えるかたちになります。どっちかという、大井川港は石油とかの(原材料)や産業の製品を扱う港。シラスとサクラエビ等の水揚げも当然ありますが。
- ・焼津市は海に面しておりますので、そういった面で、まず先ほど出た防災。私のイメージ的には、焼津市は避難タワーとか。今、旧大井川(町)で防災広場をつくっています。高台に盛り土して公園を今つくっている最中かと思えます。対応は比較的周りの市町村からいうと早いのかなというイメージがあります。
- ・当然、今出ている課題に対しては、だいぶ前から取り組んでいただいていると思いますが、実際、その辺の進捗度は。当初ここまでいこうというのに対して、各エリアを区切って避難タワーができたり、高層の公共の例えば防災センターとかは、二方向から上れたり、階段を付けたりとかいう対策がどんどん市としては進められていると思います。今の時点でそういった津波に対する対策、防災ですね。
- ・あとは、地元の住民の防災に対する意識も非常に高まってきていると思うので、防災訓練とか、そういった活動を市としても積極的に後押ししてくれるような対策、支援をいただければと思います。
- ・実際に防災に関して、市として、当初、震災があった段階で避難タワーとかそういったものを計画されたと思いますが、それが一段落して、今後新たなプランがあるのか、もしわかれば次回それを踏まえて、意見の参考にさせていただければと思います。

#### (川口会長)

- ・ちょっと解釈させていただくと、防災が非常に重要なポイントだなということと、大井川というところを考えると、港が産業基盤として非常に重要な要素として認識されている。防災に関しては、津波防災地域づくり推進計画がありますから、多分短期的にはこちらで計画されていると思いますが、長期的に考えたときに、私たちは災害にどう対応していったらいいのかということ、示してもらもなのか、「私はこうしたいと言うべきなのか」というところはあると思うので、市のほうに用意していただくようお願いしてみます。ご自身で「こうありたい」というのを考えていただけると、次回非常にいい議論ができるかなと思いますのでよろしくお願いします。
- ・いかがですか。農業の立場として都市という相反するように思いますが、実は多分一体だと思えます。

### (小池委員)

- ・今日は黙っていようかなど。あまりにも議題というかこれが大き過ぎるものですから、20年後を見据えるというのは難しいですね。逆に20年前どうだったかと考えました。例えば、インターネットはADSLもなかったしここまで(普及していませんでした)。携帯電話は、やっと持ち始めた、普及し始めたかな、そのぐらいです。では20年後というとわからないですよ。ね。「20年後を見据えて」と言われてもあまりにも大き過ぎてしまって、5年後だったらなんとなくわかると思いますが、議題があまりにも大き過ぎる。辻さんがいろいろおっしゃった意味もよくわかります。
- ・辻さんがさっきおっしゃったのはトップダウン系ですよ。上から決められている。商工会議所の方からはボトム側、下から吸い上げてくる意見。両方を踏まえて考えなければならぬでしょうが、私は農業協同組合から来ているものですから、水田の関係。もちろん、ここ焼津は魚のまちであることは間違いないです。でも、一次産業の一人といたしまして、トマトも志太トマトとして非常に有名でした。メロンも有名でした。今はアメーラ(アメーラトマト)が頑張っています。それは今、当農協としても非常にバックアップして一生懸命やっているつもりです。
- ・その中で、基本的なところで主食用米である水田、水稲、お米ですね。この部分もしっかりと見ていただきたい。例えば、このようなプランを立てるときに、ちゃんと作る側の意見も聞いていただきたい、しっかりとそこら辺も考えてプランを立てていただきたいという面。
- ・それと、ちょっと宣伝も兼ねてしまうかもしれませんが、SBSで昨日、その前にも、酒米が足りないというのがちょっと出ていましたね。静岡県で作った酒米——「酒造好適米」といいます——の品種に「誉富士」という品種があります。その品種はもちろん静岡県でしか作っておりません。その品種を静岡の酒蔵が作って、大井川流水または南アルプスの地元の水、酵母も静岡酵母。静岡、静岡、静岡と、地産地消とまではいきませんが、これを売り出さないわけにはいかないと思うんですね。
- ・ちなみに当焼津市は、今、水田なんかも酒米でちょっと広まってきています。静岡県の酒米の60%の面積を当焼津で今作っております。静岡の60%です。収穫量でいいますと、大体55%以上は焼津です。焼津が酒米をつくっている。焼津なくして今の酒米、酒蔵もありません。そういうところも見ていただけたらと思います。メンバー的にはたかだか10人ぐらいです。その10人ぐらいで静岡の(酒米の作付面積の)60%以上をつくっている。そういうところもぜひみていただきたいと思います。戦略も含めました。申し訳ございません。

### (川口会長)

- ・最後の宣伝が非常にいいと思います。「都市のコンパクト化をします」といって一定の集約化をします、集約した残りの土地はどうするの、ということだと思います。都市側の理論としてはコンパクトにして効率的な都市構造につくり直したほうがいいですが、空いた土地がちゃんと有効に活用されてない限り……。特に、日本の都市は都市的なところと農地とかが非常に複雑に絡み合っているというような構造があります。焼津もまさにそうだと思います。そういうことを考えると、今おっしゃったところで、どうやって残った土地を生かしてやっていくのかということ視野に都市構造を考えないといけないうことで、非常にいいご指摘をいただいたと思います。今日は黙っていようなんて言わないでどんどん言っていただければと思います。
- ・お時間が来てしまいましたが、せっかく来ていただきましたので、皆さんに言っていただきたいなと思います。寺田さんお願いします。

**(寺田委員)**

- ・ 資料的なお願いです。一つは、人口の関係で人口が減るとかそういう話をしていますが、焼津市はもともと人口密度が高くて、人口が正直言うと多過ぎるといいますか、私はそういう感覚でとらえています。だから、人口が減ること自体は、まああまりいいことではないでしょうが、どういうふうになるのかとか、何かもうちょっとその分析ができるような資料といえますか、どういうふうに変化が変っていくのかということが一つ問題かなと思っています。
- ・ もう一つは、水産業の話です。焼津港と大井川港、両方の港が水産ばかりではなくていろいろありますが、水産業として発展するための基礎データとか。今、そもそもシミュレーションはどのような構造になっていて、常識的にはわかっていますが、人がどういうところに。水産業に携わる人は減っていますが、それが今どうなっているのか。
- ・ 「魅力ある」といっても、これも昔から言っていますが、水揚げされた魚のいいところは皆よその地域に(行く)。地元において、今、どなたかが「うまい、うまい」と言いますが、うまいものはこの辺にはないのではないかと私は 40 年来住んでいていつも言っています。よほど上手に魚屋さんを探さないとおいしい魚が手に入らないんですよ、というのが焼津市民の実感でございまして、そこから言っても、水産業が一体どういう実態であるのかというようなデータが欲しいということです。
- ・ 一番もとへ帰りますと、この上位計画の中に志太広域都市計画区域マスタープランがあるということです。そうすると、そのマスタープランの一地域をこの焼津が占めるのではないかとということ、それを知らなければまずいのかということ、それと、先ほど来、話の中で、総合計画の後期基本計画がつい最近出されたといいますが、それも上位計画だということ、それがある程度理解されなければまずいのかということで、どこら辺まで理解すればいいのか、どのぐらいの資料をいただけるのか、また教えていただきたいと思います。

**(川口会長)**

- ・ 基本的には、既成の上位の計画についてはそれを守りながらというか、(上位の計画)としてとらえながらということですので、一定の資料提供はご希望に沿ってしていただくようお願いをしたいということと、志太広域都市計画区域マスタープランについて、オブザーバーとして(静岡県島田土木事務所都市計画課長に)来ていただいているので、計画の状況とか、こちらの関係等、少しお話をしていただけることがあれば(お願いしたいと思います)。
- ・ 資料を用意していただいて、ご提示するというようお願いをしてよろしいでしょうか。今年度と来年度で計画されると先ほど説明していただきましたが、それは間違いありません。今年度と次年度で志太広域都市計画区域マスタープランは策定されるということです。
- ・ こちらの計画と合わせて作っていただくことになるので、ここでの意見が反映しやすい状況でこの計画は策定されるととらえておいてもいいですか。

**(市都市計画課)**

- ・ 市の計画についてはそうなります。ただ、県の区域マスタープランについては、都市再生特別措置法の関係もありまして、若干遅れるかもしれないということがあります。ただし、県の作業状況もわかりますので、それと合わせながら進めます。

**(川口会長)**

- ・ ご希望は広域マスの情報も、ということですので、資料の準備等もしていただいて、皆さんに理解し

ていただけるようにしていただければと思います。

- ・あと、できる範囲で上位の関連計画でも。私もちょっと資料をいただいたりしていますが、皆さんもご理解をしていただけるような内容で提供していただければと思います。
- ・あと、ネットで見れば、きつい言い方ですが、細かいところまで見えますので、それも利用していただければと思います。しかし、それだけに頼ってはいけませんので、紙ベースでも皆さんに提供していただければありがたいかなと思います。

### (辻委員)

- ・産業と雇用という観点から一つお話ししたいのですが、都市ガスの事業をやっていると非常によくわかるのですが、大井川流域ということで水がすごく豊富で、先ほど話が出ていましたが、水の質がいいということで、そういう水をたくさん必要とする工場が、大井川の西岸にもありますが、東岸にたくさんあります。こんなにある地域はそうたくさんないのではないかなと思っています。ガスの使い方を見ると非常によくわかるのですが、例えばサッポロビール株式会社とか、住友ベークライト株式会社とか、そういう大きな工場1社だけで焼津、藤枝の民生をまかなってしまうぐらい使います。従業員も二千、三千人というわけです。だから、東岸で見ても、大井川の財政がいいのはかなりあの辺が貢献しているのではないかなと思います。あの辺に空いている土地がまだたくさんあるので、そういう誘致をもっとできないのかなと常々思っていました。
- ・逆の観点から言うと、浜岡から 30 km 圏内であって、本社から移転を考えると言われているところもあるやに聞いております。大きい工場1社移転されると相当財政的に厳しい。あまり言えないことも多いと思いますが、今ある工場の動きはどうなのかということと、誘致にもっと積極的に動いてはどうかと思います。その辺のことを次回までに何かお答えいただいたらありがたいな、と。

### (川口会長)

- ・非常に難しい課題かと思いますが、基本的な考え方として、工場が雇用の柱になっている限りは、雇用の受け皿はどこでやるのかといったときにどう考えるのか。三次産業でいくの、製造業でいくのかいろいろあると思います。製造業となるとかなり広い面積が必要になってくるので、そういったところも、基本的な考え方とか、今現状はどうなのかといったところを、できる範囲でいいので、また何らかの情報いただければと思います。

### (市都市計画課)

- ・そういった状況をまた用意させていただきたいと思いますが、大井川流域という話で、こちらは水をよく使うということもありますが、実際に大井川の水を使うことによって、大井川のここは田園があります。焼津のほうでも水を使うことがあります。国の事業として使うということで、市街化調整区域。大井川のほうが多いですが。市街化調整区域については、その水を使うことで農地を保全するということがあります。「農地を保全する」ということによって、新しい工場用地とか商業用地をつくるのがちょっと法的に難しいという状況が実際のところあります。その農地がどういうふうに使われているのかとか、そういうことについてはまた次回お示しできればと思います。

### (川口会長)

- ・今のようなお答えで、「そうはいつでもできないものはできないんだよ」ということがあれば、そんなに遠慮しいい言わなくても率直に言っていただい。そういった情報は皆さんわからないものですか

ら、そういうところをしっかりと、くったくなく、どんどん出していただいて、ではどう考えるかというのを言っていたら、この場でもいろいろな意見を出しやすいと思います。そんなに遠慮しいい言われなくても、どんどん、こうなんですよというところはまた説明していただければと思います。ちょっと時間も過ぎてしまいましたが、田中委員、まだご発言がないようですが。

### (田中委員)

- ・感想からいきますと、やっぱり 20 年は長いかなという気がします。20 年経つと、ちょうど 2035 年ぐらいですね。防災的にいきますと、あまり調子のいい期間ではないというのは、静岡にお住まいの方なら昔から言われているところなので、そこまでのあいだにこういうことを考えるというのはなかなか難しいなというのが一つの感想です。
- ・特にここは津波ということがありますので、津波が来ると、こういうものがみんなちゃらになってしまう可能性があります。地震だけでしたら、けっこう、前のものを生かしながら、それをモディファイしていこうという考え方でやられているところが多い。密集をどうどけようとか、そういう話だけで区画整理をどうしようとかいうことになってきますが、津波でみんな流されてしまうとか、かなり浸かってしまうと、かなりちゃらになって、また考え直そうという話になります。それは東北なんかでも、みんなかさ上げしてやり直そうという話になっているのと同じことですので、そこでのせめぎ合いというのか、一生懸命考えて進めていけるけれども、どこかでちゃらになってしまったというような話が出てきそうな気がするので、それはどう考えればいいたろうなというようなことが、さっきからずっと頭の中に。
- ・そういう意味では、津波が来て、原田先生はどこでどう被害が出るかというのを計算されていますが、そこをある程度頭の中に入れながら、ちゃらにならないような形で都市計画というのを、考え方をきちんとつけていく。どっちみち、どこかで来る。来ないかもしれませんが、私は来ないほうにかけていますが、でも来そうな気もしますので、そのときに、できればこれを引き継ぎながら次の計画にもっていけるような、そういうマスタープランであってくれれば、このようなところは多少やりがいがあるかなという気がします。
- ・それから、先ほど来、いろいろなグラフを見せていただいて、トレンドというお話がずっとあったと思いますが、操作可能なトレンドと不可能なトレンドがあると思います。少なくとも人口は操作不可能ですから、あのトレンドは 20 年後も続いていくと思います。
- ・それから、それに合わせて、今日はなかったですが、財政はどうなっているのだろうかというのも気になります。「健全財政を目指す」とは書いてありますが、例えば財政力指数なんかがこのあとどういふふうに変っていくという予測を持っておられるのかというようなこと。いきなりここに大きな工場が来てばんばん税金が入って来る、などということはあまり考えられないと思いますので、その辺りの予測と、できることとの比較というのでしょうか、やはりそれもちょっと考えなければいけないのだろうか。
- ・その代わり、操作可能なものも多分あると思います。例えばさっきの自動車、公共交通を使う人が多いの、少ないの、などという話は、ある程度操作可能であろう。そうすると、やはりそういうところに向けて、そのプランはどういふふうを考えていくのかということ、これからここで考えるのかなと思います。
- ・そういう意味では、ちょっと要望ですが、財政の見通しみたいなものを、もしよろしければちょっと。予測で全然構いませんが、現状と 20 年後ぐらいの見通しなんかも考えておられると思いますの、その辺を少し出していただければ。
- ・最後に、どこでもそうですが、ちょっとやり過ぎのような気がします。あれもこれもやるというようなことが

盛ってあって、財政は多分、人口と同じように下がっていていると思います。それから、多くが交付税と補助金でいろいろなことをやらざるを得ないという中で、盛り込み過ぎではないかというのは思います。

- それから、先ほどトップダウンというお話もありましたが、私は、都市計画はあまりないですが復興計画にはずいぶんかわりました。復興計画を進めていくと、行政がやると言っていることはどんどん進みますが、実はまちではあまりいろいろなものが進んでない。事業だけがどんどん進んでいて、そのほかのものが取り残されるというわけではないですが、なかなかうまくかみ合わないことがあります。ですから、その辺も考えて、最低限やらなければいけないことと、最低限できることというのを、もう少し絞らないと。これから職員の数もどんどん減ってくるだろうと思います。今でも多分、乾いた雑巾を絞るほど少なくなっているのではないかと思いますので、そういう中で、あれもこれも。これは市長はなかなか言いにくいところだと思いますが、そこら辺も少し考えながらこのマスタープランを考えていかないと、言葉はきれいですが、先ほどもどなたかおっしゃられたように、実現性がどうなのかという話になってしまうのではないかなと思います。以上、感想です。

### (川口会長)

- ありがとうございます。人口が減って縮小型の社会になっていく中で、現実的な都市構造はどうかといったときに、途中で災害があるかもしれない。本当の意味で、何があってもこの構造が、焼津市にとってはこうあるべきというのが出せれば、こんなにいいことはないのかな、と。それは多分、足し算で何か乗せていくというよりも、だんだん都市の形を整えていくという視点を持つ必要があるのではないかなというのは、私の意見です。整えていくときには、当然、今までの積み重ねを踏まえて整えていくわけだから、その都市なりのものになっていくはずであると思います。
- しかし、人間は悲しいかな、何かを削ったり、整理したりというのは苦手ですよね。その辺をやはりいろいろな立場の人で議論しながら、どうあるべきかというのをぜひ皆さん率直に意見交換しながら市に提言していけたらなと思っております。
- 今日は第1回目で、いろいろな意見を出していただいてまとめることもなかなか難しいものですから、特にまとめもませんが、まず1点、市としてどう考えるかという望みとか希望があって、その情報公開は目いっぱいしていただきたい。私たちはどう考えるのか。「こういう視点を僕は持っているが、ここはどう考えるのか」といったところで、ぜひ今後意見を積極的に言っていただければなと思います。いただいた情報で自分がどう感じ、どうあってほしいのかというのを、ぜひこの場を使って積極的に発言していただければなと思います。
- 時間がだいぶ過ぎてしまって申し訳ありませんでした。今日はこれで終了したいと思いますが、最後のお知らせがありましたね。次回の日程は事務局にお願いできることになっておりますので、よろしく願います。

以上